

ボール紙組み立て△や☆に



お年寄りの認知症予防に役立てようと、豊橋市西幸町の病院「みゆきクリニック」で、ボール紙のおもちゃを使ったユニークなトレーニングが始まった。ボール紙をパズルのように組み立てるおもちゃで、その名も「脳トレ仕切り益」。鈴木大次郎院長(60)は「両手を使った細かい作業が脳の活性化につながるのでは」と期待している。

(池内琢)

「仕切り益」

認知症予防へ 脳トレおもちゃ

病院の一室に集まったを組み合わせ、三角形や七十一八十代の女性患者 星形にかたどる。「やっ 年寄りたちの元気な声から十人が、鈴木院長の指 てみると案外難しいね 響いた。示で、ボール紙の組み立 え。頭の体操になる」と 同病院では以前から、てを始めた。青や赤、黄 同市西幸町の無職長谷合 ス 認知症予防のため、高齢色の板のようなボール紙 ガさん(65)。およそ一時 の通院患者らを対象に週

認知症予防にと「脳トレ仕切り益」の組み立てを楽しむお年寄り＝豊橋市西幸町のみゆきクリニックで

一回、算数の計算問題や漢字書き取りなどを続けてきた。脳トレ仕切り益は、それに加え、昨年末に導入した。脳トレ仕切り益を作ったのは、同市問屋町の梱包用品製作会社「福益工業所」の白井伸幸社長(49)。ボール紙は自動車部品梱包用で、従来、市内の障害者通所授産所「ワークショップ杜」で梱包用品を作っていた。しかし、一昨年の秋の世界

豊橋の病院で取り組み「脳の活性化期待」

「細かい手作業はもちろん、こうして集まって話をするのも認知症防止に役立つはず」と鈴木院長。黙々と取り組む計算や漢字の書き取りに加え、会話が弾むトレーニングの意義を強調する。白井さんは「子ども向けのつもりだったので、お年寄りにも役立てるなら本当にうれしい。授産所の利益アップにつながる」と話している。「脳トレ仕切り益」の問い合わせは、ワークショップ杜＝電0532(23)4020へ。



おたまたま
初めて落語をテレビで見ました
子なにこの人、一人でしゃべってる
なまき・なな(9歳) = 子からこいちゃんこい
私なのすこいな。かつこいこい
守山区、母・水野万友香
「ほしくしてしよつがなるのね」
私(何かの賞だと思って)
稲沢市、母・河野聡子
同時不況の影響で自動車部品そのものの需要が減ったこともあり、仕事が激減。余ったボール紙の利用を増やそうと、白井さんが約一年がかりで脳トレ仕切り益を開発、製作と販売を始めた。当初は子ども向けだったが、この授産所のボランティアをする知人を通じて知った鈴木院長が導入を決めた。